

ラスボスの思想(2)



存在の法則



春日信彦



目次

ラスボスの思想 (2)	1
-----------------------	---

ラスボスの思想 (2)

1

ニューロンは同じ

AI が、工場での作業、日常生活、ゲームで活躍するほど、AI の進歩は目覚ましいものがあります。ところが、脳機能についての解明は、いまだ、道半ばというところでは

一般的に、脳を使うとは、ニューロン（神経細胞）を機能させるということです。もっと細かく言えば、シナプスにおいて神経伝達物質（約 50 種類以上の化学伝達物質）が受容体に作用するということです。このことは、わかっていますが、シナプス機能による創造メカニズムは未知の世界なのです。

生きているということは、ニューロンが機能しているということです。ニューロン機能というのは、まさしく、生理学的、化学的、物理学的なものです。ところが、その機能は、現実的なものでなく、非現実的なものも創造できるのです。

2

例えば、天国や地獄が、死後の世界にはある。人は生まれ変わることができる。宇宙人が人間を作り出した。神様が宇宙を作った。山里の峠に幽霊があらわれる。空を飛んでいる夢を見た。

泣いたり、笑ったり、考えてたりすることも、正しいと思うことも、悪だとも思うことも、論文を書くことも、小説を書くことも、作曲することも、絵を描くことも、ニューロン機能の産物です。

人を幸せにしようと修行に励んでいるお坊さんのやさしい思いも、それと相反する、

しつけと言って、子供を虐待をする親の鬼畜のような思いも、ニューロン機能の産物です。

3

生きている限り、ニューロンは機能します。でも、自分の思い通りに、すべてのニューロンを機能させることができるわけではありません。もし、生きていくために必要なニューロン機能を自分の意思で操作できるならば、自分の意思で心臓を止めることができることとなります。これでは、人類は滅亡してしまいます。

ニューロン機能は、遺伝的なものと環境によるものがあります。遺伝的な面では、人は、生まれてすぐには、歩けません。一定の栄養が与えられるならば、筋肉と平衡感覚の発達によって、立てるようになります。

環境的な面では、生まれて1年ぐらいいは、しゃべれなくとも、親の言葉を聞いているうちに、親と同じ言葉を習得し、話せるようになります。もし、知識が遺伝すれば、受験勉強などしなくて済むのにな～、と思ったことがある人は多いのではないのでしょうか。

4

言語、音楽、イメージなどを作りだしたりする、また、歩いたり、走ったり、泳いだり、などの体をコントロールするニューロンはどこにあるのでしょうか？ それは、だれでも知っている頑丈な頭蓋骨の中です。

というのは、ニューロンがとて弱いかからです。微量の脳内出血だけでも、ニューロン機能に異常をきたします。言語能力に深くかかわっている海馬（かいば）に損傷が起きると認知症になってしまいます。

頭内では、約数百兆個のシナプスを持った約2000億個のニューロンが、約2兆個のグリア細胞、脳内ホルモンなどと共生しています。脳は、未知なる内部宇宙と言えるでしょう。

記憶力が悪い人は、どうしたら記憶力が良くなるんだろう。ブサイクな人は、なぜ、ブサイクに生まれてきたのだろう。運動会でいつもびりの人は、一生懸命に走っているのに、どうして、走るのが遅いのだろう。このようなことを思ったことがある人は多いのではないのでしょうか？

人は、同じニューロンを持っているのですが、ニューロン機能の違いによって、頭がいい人、悪い人、運動が得意な人、不得意な人、イケメン、ブサイク、様々な人が誕生するのです。

男性も、女性も、白人も、黒人も、黄色人も、英語を話す人も、中国語を話す人も、日本語を話す人も、皆、同じニューロンを持っているのです。

人は、誰しも、ニューロンの恩恵を受けていますが、いまだ、ニューロンの有効活用方法についてはわからないのです。

AIロボットを作り出すニューロンが存在するのに、ニューロン機能の解明は、いまだ不十分なのです。というのも、数百兆個のシナプスが、神経伝達物質の授受をしているからです。

さらに、ニューロンを取り巻く4種類のグリア細胞が、ニューロンの成長と機能に大きくかかわっていることは、ある程度分かっています。グリア細胞の役割は、脳内環境の維持、代謝的支援、栄養物質の供給、などですが、ニューロンとグリア細胞の相互作用は研究段階にあります。

ニューロン機能が低下した時、ニューロンはグリア細胞機能を昂進させ、ニューロン機能の回復を図る、と私は推測しています。ニューロンのグリア細胞への能動的作用が解明されれば、革命的発見となることでしょう。

すでに述べたように、すべての人において、個々のニューロンはみな同じなのです。違うのは、ニューロンではなく、「組織的なシナプス機能」なのです。頭がいい人のニューロンも、頭が悪い人のニューロンも、スポーツが得意な人のニューロンも、スポーツが不得意な人のニューロンも、皆、同じなのです。

ニューロンは、シナプスを媒介として、お互い連携していますが、シナプス機能は、AIで解析できないほど組織的に無限なのです。現段階では、AIを使って解明しようとしても、人間の生きたニューロンを用いた実験は不可能に近いのです。だから、数理的、物理的に解明することがかなり困難なのです。

8

存在の法則

それでは、いったい、どうやって、ニューロンとグリア細胞の相互機能を理解すればいいのでしょうか？ 私が思い付く方法としては、今のところ、「存在の法則」です。その法則とは、「プラス機能とマイナス機能が同時に起きる」ということです。ニューロンとグリア細胞に関していえば、お互い同時に機能を助け合う。シナプス機能においても、同様なことが言えると考えています。

感情に関して言えば、「好き」だという気持ちが起きた時、自覚していなくても、同時に、ある対象に対し「嫌い」だという気持ちが起きているということです。

経済学では、「需要と供給」が同時に起きる。法律学では、「権利と義務」が同時に起きる。化学では、「プラスイオンとマイナスイオン」が同時に存在する。積分では、「解析と集積」が同時に起きる。力学では、「作用と反作用」が同時に起きる。

9

今後、ニューロンとグリア細胞を効果的に機能させることができる脳内ホルモンが発見されるかもしれません。でも、大切なことは、お互いのニューロン機能を尊重することではないでしょうか？

戦争で人を殺したり、人種差別したり、イジメをしたり、これらすべて、ニューロン

機能なのです。

人の攻撃感情には、恐怖心がかかっています。言い換えると、殺人も、差別も、イジメも、心の底に恐怖心があるからなのです。だから、恐怖心が悪用されないように心しなければなりません。

10

生きている限り、恐怖心は存在します。当然、恐怖心にも、長所と短所があります。長所として、恐怖心は危険から身を守ることに役立っています。短所として、恐怖心が共生の妨げになります。

生きていくということは、感情と言動が恐怖心に左右されるということです。人は、恐怖心をコントロールできるのでしょうか？ 誰しも、恐怖心や不安感からの「逃避」は、娯楽に浸ることによって、どうにかできるでしょう。でも、その「コントロール」はかなり困難な心の作業なのです。

いじめられている人の中には、毎日苦しむばかりで、恐怖が増大し、未来に絶望し、自殺する人もいます。いじめる人の中には、自殺したいと思うぐらい自分はいじめられた。だから、自分も人をいじめなければ、気が済まない、と思う人がいるでしょう。一方で、いじめられると死にたいと思うくらいいやな思いをする。だから、イジメはやめよう、と思う人もいるでしょう。

11

日本では、イジメは重大な問題になってますが、いじめる人にも、いじめられる人にも、恐怖心が大きく作用しています。

自殺の引き金になる強度の恐怖心を消し去ることはできません。でも、一方では、それを上回る生きようとする本能的生命力もあるのです。だから、自殺を思いとどまることもできるのです。

我々は、生きている限り、恐怖心を見つめ続けなければなりません。個人的には、「存在の法則」を参考に、共生できる社会を考えていきたいと思っています。

今後、研究が進み、自分の意思でグリア細胞を活用し、ニューロンを有効活用できる日が来ることを願うところです。その時、共生できる人類が誕生するかも？

ラスボスの思想(2)

版番号の予定

{{-
-}}

著 者 書籍情報の編集ページから、著者情報を入力してください

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
